



2015年度
5月15日(金)
第1号

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

佐賀県開催

<むつごろうラウンド>



H27.5.15(Fri) 佐賀県生涯学習センター

子供の体力向上指導者養成研修西部ブロック終了後、講師の先生方も佐賀に留まっていたいただき「むつごろうラウンド」を開催することができました。金曜日の17:00スタートでしたが、佐賀県内の先生方の参加も多く大変盛り上がりしました。計31名で研修会の報告を聞きながら、授業づくりについて熱く語り合うことができました。

1 はじめに

座長 佐藤 豊教授（鹿屋体育大学）



今年度も、いよいよ始まりました。平成23年度からスタートし5年目を迎えました。昨年度は20回を開催することができたので、今年度は50回開催を目指して頑張っていこうと思います。皆さんとともに頑張りましょうね。と座長佐藤先生よりはじめのご挨拶をいただきました。

今年度は、HPのサーバー以降のために、間もなくアドレスが変更になります。お気に入りに登録されている先生は、再検索してみてください。

2 平成27年度子供の体力向上指導者養成研修（西部ブロック）報告

今年度の西武ブロック研修は佐賀で行われました。これに合わせて「むつごろうR」を開催したわけですが、ラウンドでは、講師の先生方に研修のコアな部分をお話しいただき、みんなで研修を共有することにしました。

○幼児が楽しく体を動かすこととおして基礎的な動きづくりを図る部会

横内 理香 教諭（山梨県韮崎市立甘利小学校）



幼保小の連携のためには、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなどが必要であること。

様々な遊びを中心に、楽しく体を動かす工夫や動きの例をお話いただきました。

○段階的な指導をとおして運動の楽しさを味わわせる部会

器械・器具を用いた動きの質を高めるコース 田山 満則 教頭（山口県光市立浅江中学校）



小中高と指導内容の系統性をしっかりと踏まえたうえで指導することの大切さや同じ技の習得でも条件を変えたり、組み合わせたりするなどの指導の工夫の大切さを話されました。

右の写真のように腕を組み、仲間と一緒に前転をするという前転の発展的な課題として、その工夫には興味深く聞き入ることができました。



また、異質集団のグループ活動の充実や挑戦する意欲の高め方、教え合い活動の活性化の充実がキーワードでした。

○技能の程度に応じて、攻防の楽しさを味わわせる部会

伝統的な運動(柔道)をとおして動きの質を高めるコース 佐保 宏二 指導主事(大分県教委)



佐保先生は剣道が専門種目ですが、柔道の講師として頑張っていました。研修に当たり研修生には、指導案などの事前課題が出されていたのですが、指導目標や内容が対象学年の生徒とずれているものもあり、間もなく学習指導要領の改訂作業が始まろうとする時期にもかかわらず、まだまだ学習指導要領及び解説の理解が不十分であることを痛感したと話されました。高橋調査官からも「そんなんですよ！」と話を伺い、私たち少しは学習指導要領がわかっている者が、もっとも頑張っていかなければならないと強く思いました。

○様々な動きづくりや運動の計画の立て方をとおして体力の向上を図る部会

中野 一成 指導主事(福岡県教育委員会)



お話の前に、研修の内容の実践をしていただき、会場がにこやかに盛り上がりました。やっぱり、体育はいいですね。

授業づくりをとんこつラーメンの職人に例えてのお話で、さまざまな素材を教師というプロの手で再構成・再編成し生徒に提供する。それで、いかにリピーターを増やしていくかが授業づくりであると力説されました。また、体づくり運動では音楽がキーになり、何気ない動きから子どもたちが知っているリズム、動きに発展して聞くことが子どもたちの運動意欲につながっていくものであると話されました。

○技能の程度に応じて、攻防の楽しさを味わわせる部会

ボール操作の動きの質を高めるコース(ゴール型・ハンドボール) 大友 智教授(立命館大)



大友先生はさすがノリノリの報告で、時間が足りないくらいでした。もっと話を聞きたかったですね。

ハンドボールの授業実践を探しても、なかなか好事例を探そうことができなかったということでしたが、ゴールの工夫や3対3のゲームなど面白い指導内容をお話になり興味深く聞くことができました。また、さまざまな活動をとおして、子どもたちに自己有能感や有用感を持たせる工夫が必要であるとのことでした。これは、体育だけで言えることではなく、現在の児童生徒にもっとも必要なことではないでしょうか？でもやっぱり、ここでも体育が一番いいんじゃないでしょうかね！

3 まとめ

座長 佐藤 豊教授(鹿屋体育大学)

まとめでは、やはり小中高の体系的な指導が必要なこと。特に体づくり運動では、中学3年以降のマイ・プログラムを作るところの実践事例がなかなかないために、指導実践が進んでいない現状である。九州ネットワーク研究会からでもその実践を深めていけたらと…。



今回は、授業づくりの最前線である子供の体力向上指導者養成研修の報告をメインに進めましたが、通常ラウンドの半分の時間しか設定できなかったのも、すごくもったいないと感じました。もっともっと講師を務めていただいた先生方のお話をお聞きしたいという思いでいっぱいになりました。この思いを、日々の授業実践に向け、教材開発・授業改善を行いたいものです。今回は、平日開催にもかかわらず多くの先生方のご参加をいただき、体育人の熱い思いを感じることができました。ありがとうございました。

【報告:ふくい】